

原台の風

令和2年度第4号(通算309号)

一佐西学校だより

令和2年8月9日発行

〔発行責任者〕

長崎県立佐世保西高等学校長 宅島 健司

あとひとつ

校長 宅島 健司

2006年8月20日、第88回全国高等学校野球選手権大会、駒大苫小牧高校VS早稲田実業高校の決勝戦が甲子園球場で行われた。試合時間は3時間57分にも及び、延長15回1対1のまま決着がつかず、再試合となった。試合終了時、観客はスタンディングオベーションで選手たちを称えた。翌8月21日再試合。早稲田実業がリードしたまま9回駒大苫小牧も反撃を見せ、2点を入れたが追いつけず、世紀の名勝負は4対3の1点差で早稲田実業高校の優勝となった。この試合で話題を呼んだのが、早稲田実業ハンカチ王子こと斎藤祐樹と駒大苫小牧の田中将大投手の投げ合いであった。

時は過ぎ、2013年日本シリーズ東京読売ジャイアンツVS東北楽天ゴールデンイーグルス3勝3敗で迎えた第7回戦の9回、その人が登場する。

ペナントレース24勝0敗1セーブという成績を上げ、獅子奮迅の活躍を見せていた楽天のエース田中将大投手である。この年、前人未踏の20勝以上で無敗という記録を打ち立てた。24勝で最多勝、勝率1位、防御率1位の3冠を達成した。日本シリーズの前哨戦クライマックスシリーズの千葉ロッテマリーンズ戦でも1勝1セーブを上げた。さらに、日本シリーズの第2戦で勝利投手になっており、この年26勝2セーブ、2012年から30連続勝利を収めている大投手である。

前日、3勝2敗で大手をかけていた楽天はエースである田中投手を第6戦に起用。9回まで160球を投げる力投を見せたが、2対4でジャイアンツに敗れ、最終戦で勝負を決することとなった。この年、彼にとっては初の敗戦であり、連続勝利も30勝で途切れた。監督である星野仙一は、田中が投げるんだからいつか逆転してくれるとの思いもあって、9回まで投げさせたのではあるまいか。その夜、奥さんである元タレントの里田まいが「明日は投げないよね」と問うと「ああ、うん」と答えている。しかし、翌日の試合、彼はブルペンに入り投球練習に臨む。第7戦の先発は現楽天のエース当時ルーキーであった則本。調子が素晴らしく良く、ジャイアンツを8回まで0点で抑えていた。

その時、私が生涯忘れないであろう、事実は小説よりも奇なり、真実が虚構を超えた奇跡を見たように思う。私はそれほど熱心な野球ファンではないが、読売ジャイアンツが9連覇を達成し、王貞治と長嶋茂雄がONとして3番4番を打っていた姿をTVで見て知っている数少ない年代であり、読売ジャイアンツファンである。しかし、この時ばかりは東北楽天ゴールデンイーグルスの勝利を神に願った。

2011年3月11日に起こった東日本大震災を経験した東北の人々が、楽天ゴールデンイーグルスの活躍にどれほど勇気もらったことか計り知れない。私も3.11TVで見た東北の多くの港が津波に飲み込まれ、仙台市のコンビニが火事で燃え続ける情景を忘れることはできない。夢が叶うという願いは、その歌詞のように、日本製紙クリネックススタジアム仙台に詰めかけた楽天ファンが歌う「あとひとつ」(ファンキーモンキーベイビーズの楽曲)に託される(この曲のPVに田中投手は起用されていた)。観客は立ち上がり、人差し指を天に向け、歌っている。(星野仙一監督は、田中投手がブルペンで投球練習をしていることを聞き、田中は本気だと感じ、審判にピッチャー交代を告げる。審判が「大丈夫ですか?」と問うと、内心うるさいなあと思いながら「ピッチャー田中」と叫ぶ。)球場に鶯嬢のアナウンスが流れる。球場に割れんばかりの歓声が響く。それから「あとひとつ」の大合唱が巻き起こる。その中で、大きな背中の中投手がマウンドに向かう。私は歌詞そのままの情景だと感ぜずにはいられない。「あと一粒の涙が ひとつの勇気が 明日を変えるその時を見たんだ なくしかけた光 君が思い出させてくれた あの日の景色忘れない」

9回、マウンドに立つ田中。さすがに前日の疲労は隠すことができず、ストレートの球は上ずって抑えが利かない。それでも150キロのスピードが出ている。2人のランナーをヒットにより出すが、後続を断っていく。この時の解説であったヤクルトスワローズの元監督古田氏は「精神力でこれほど肉体を制御することができるのか。前日の160球は、日本一がかかった1球1球に全身全霊をかけた160球です。その翌日にこの投球、信じられない」と語った。ワンアウトを取り、次のバッターは昨日の試合で3安打を打った坂本。田中と同期のスラッガーである。その坂本に対し、投げるボールは、スプリットフィンガーファストボール。田中は全ての投球をこの球に託す。坂本三振。次のバッターは、2連覇がかかる原監督が代打の神様と呼ぶ矢野。田中投手はスプリットを投げ続け、三振を奪いゲームセット。生涯初の日本一を獲得し、星野仙一の躰が仙台の夜空に舞った。

名将野村克也が育て上げ、闘将星野仙一が超一流に仕上げた鬼神のごとき田中将大投手の活躍により、東北の人々楽天ファンの願いが叶った瞬間であった。

「夢が叶う」という。以前にも書いたが、「夢」という言葉が嫌いであった。この「夢」という言葉の甘い誘惑に乗り、「夢」を目指し、どれほどの人が失望し、夢破れ、辛い思いをしながら人生を送っていることだろうと思っていたからである。

しかし、佐世保南高校の進路指導主事時代、「夢」と思われた東大合格者を出した時。長崎県高総体バスケットボール競技でベスト4に入り、4チームによる総当たり戦のベンチに入った時(競技最終日までプレーできる選手の姿をベンチで見られた時)。上五島高校の教頭時代、「夢」と思われた国公立大学合格者50名を達成した時。長崎西高校の教頭時代、不可能と言われた長崎県の公立高校で東大2桁合格の達成を経験して、長崎西高離任式で生徒に伝えた最後の言葉は「夢は叶う」であった。

2013年を最後に日本野球界を離れ、ニューヨークヤンキースに移籍した田中投手はメジャーリーグでも毎年2桁の勝ち星を収める活躍である。ここという時に、あの鬼神のごとき活躍を見せられたのは、穿った見方かもしれないが、彼が「本当に悔しさを知る者」だからだと思う。甲子園優勝という「夢」をすんでのところで果たせなかった経験が彼をより大きな存在にしているのではないと思う。「夢」という目標は、達成した途端、または達成できなかった時、次の「夢」が現れてくるのだと思う。その「夢」に向かって、正々堂々どれだけ自分自身を追い込み、実現を目指して努力できるかにかかっている。その努力が本物で誰もが認めるほどのものであるならば、夢破れた時「本当の悔しさ」を知ることができる。「夢が叶った」者だけでなく、それを知った者もまた、その後の人生で大きな力を得るのではないと思う。

人それぞれに夢がある。でもその夢を叶えるためには、自分一人だけの努力では心細い。あの人が頑張っているから、皆が頑張っているから頑張れる。佐世保西高はそういう集団として、生徒それぞれの夢を叶える団体なり組織を目指して進んでいきたいと思う。また、そういう55回生、56回生、57回生であってほしいと切に思う。

3学年 「雲上蒼天学習会」勝負の夏、天王山

7月29日(水)から7日間、3学年の学習会を実施しました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により校内での実施でした。初めての試みでしたが、教室内消毒、マスク着用など様々な感染症対策をしながら充実した7日間を過ごすことができました。これまで「わからない」と意思表示ができなかった生徒が質問にいたり、早朝から、学習室内やトイレを率先して掃除をしたりと、学習面以外にも成長が見られました。学習の様子は表情が変わり、目の色を変えて主体的に学習に取り組む姿を多く見ることができました。合宿ではなく、初めての校内学習会…センター試験ではなく、大学入学共通テストへ…様々な変化に対応する力を身につけていると感じることの出来た学習会でした。55回生みんなで団結して立ち向かえば、絶対に目標は達成できる。そう信じています。君たちはやれる!55回生は乗り越えられる。頑張れ。



【第3学年主任 峯 悦子】

総合的な探究の時間 活動報告・今後の展望

2 学年

5 5 回生に続き、昨年度より「ふるさと創生」に取り組んでいる5 6 回生ですが、春の臨時休校の影響を受け計画の変更を余儀なくされています。当初は、春に地元の企業様を訪問してのフィールドワーク活動を展開し、それをもとに自分たちが立てた仮説を検証していく予定でした。しかし、感染拡大防止でそれらの活動が思うようにできないため、7月まではこれまで立てた仮説をもう一度見直したり、これからの計画をより綿密に練り直したりなど今自分たちできることに取り組んできました。そして、7月に入ってからは状況を見ながらできる範囲で校外に出てフィールドワーク活動を実施している状況です。7月30日には長崎県立大学佐世保校の先生方や学生の皆さんを招いての中間発表会が実施され、これまでの活動内容を発表し、今後の活動についての助言をいただきました。

【第2学年主任 戸塚 邦彦】

1 学年

総合的な探究の時間では、探究的な学びの手法（問題発見能力、思考力・判断力・表現力、学びへの主体性・協働性など）を身につけるための取り組みを行っています。

これまでの取り組みとしては、身近な日常に疑問を持ち人の困り感から課題を発見する練習や、課題から発想して解決するまでのプロセスについて学びました。6月には、同じクラスの中での4人の班をつくり生徒同士が疑問に思ったことをテーマとして設定し、自分達が考えた方法で実験や検証をして考察まで行う活動（ミニ探究）をしました。

今後の取り組みとしては、地域の素材から課題を見つけ、自分達にできることで地域の課題を解決する研究「ふるさと創生大作戦」を2年生の前期頃まで行う予定です。

【第1学年主任 萩原 広太】

第5 6 代生徒会会長・副会長決定！

7月16日（木）、ウイングアリーナとダンス場で立会演説会を開きました。今年は生徒会長候補2名、副会長候補2名の選挙及び信任投票となりました。どの候補者も学校をよくしたいという熱意にあふれた演説でした。投票の結果、以下のように決定しました。

【会長】 早 田 麗莉亜（そうだ りりあ）
【副会長】 宮 永 珠 実（みやなが たまみ）
松 本 麗 （まつもと うらら）



皆さんこんにちは。この度生徒会長になりました、早田麗莉亜です。私が佐世保西高校を支える柱になり、生徒会役員と一緒に、一人ひとりの声が届く生徒会をつくりたいです。みなさんが私に任せてくださったことに感謝し、責任を持って最後まで精一杯全力を尽くします。1年間、よろしくお祈りします。

【生徒会会長 早田 麗莉亜】

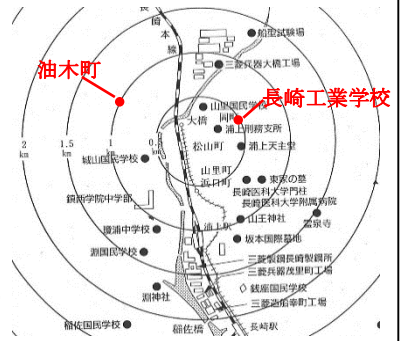
平和学習について

【キャリア支援部（研修担当）江下 佳治】

今年の平和学習は、コロナウイルス感染症対策のため全校集会での形式ではなく、校内放送を通じて、各教室で音源データを聴取する形で実施します。2名の被爆体験を聴きますが、ここでは2010年のご逝去まで、講演活動に尽力された吉田勝二さんについて紹介します。

皆さんには、『私達が伝える被爆体験』という絵本の朗読を聴取してもらおうのですが、これは吉田さんの半生を長崎市立桜馬場中学生が絵本に制作したものです。（音源は、NBC「平和文学朗読キャラバン」）

当時、13歳で県立長崎工業学校生（所在地は、現在の南山高校の所）だった吉田さんは「防空当番」で登校していましたが、空襲警報で油木町の所定の避難場所に6人の友人と出向き、そこで被爆しました。顔面の右側に大火傷を負い、右耳も失ってしまいました。当時の医療技術では、ケロイド状の皮膚を元通りに治療することは困難で、思春期の吉田さんは火傷の跡に思い悩むこととなります。母親の励ましもあり、吉田さんは「被爆者であることを堂々と示して、戦争の恐ろしさを伝えていこう」と決意します。（BGMは、佐世保在住のピアニスト重松壮一郎さんの即興演奏です。）



部活動結果報告

<陸上部>

○令和2年度第19回長崎県高等学校陸上競技選手権大会（高総体代替試合）

男子100m	第6位	浦 歩望	男子200m	第4位	浦 歩望
男子走幅跳	第2位	武田 晃太郎	男子三段跳	第2位	武田 晃太郎
女子100m	第5位	稲田 沙紀	女子走高跳	第2位	稲田 沙紀
女子4×100mR	第4位	三ヶ島如菜、森愛里、北村和望、久保川悠			

○2020年度長崎県陸上競技選手権大会兼国体予選

女子400mH	第2位	森愛里			
女子走高跳	第2位	稲田沙紀、	第3位	岩崎 萌	
女子三段跳	第2位	廣重めかり			
女子4×400mR	第4位	三ヶ島如菜、森愛里、北村和望、岩崎 萌			



<放送部>

○第66回NHK杯全国高校放送コンテスト県北地区大会

アナウンス部門	優良賞	松山未来
ラジオドキュメント部門	優秀賞	『今だから・・・』
創作ラジオドラマ部門	優良賞	『スーパー・ブラック・ワーカーズ』



<その他> ○第70回社会を明るくする運動中学・高校生弁論大会（令和2年7月24日）

長崎新聞社賞 江口 恭平